

## 日本の NGO による開発途上国への図書館支援について ー公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の取り組みに着目してー

石岡 瑞菜

開発途上国とは、先進国と比較して経済発展や開発の水準が低く、経済成長の途上にある国を指す。開発途上国では、国際連合の専門機関や先進国の政府機関及び NGO 団体による現地の図書館への支援活動が行われている。

こうした取り組みに関して、日本の NGO による支援活動の課題についてはすでに先行研究によって部分的に明らかにされている。しかし、先行研究で明らかになった課題に対して図書館関係者がどのような形で協力できるかは言及されていない。また、開発途上国の図書館への支援活動を 30 年間行っている、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA : Shanti Volunteer Association）の取り組みに関しては、SVA による図書館支援活動の全体を対象とした研究はない。そこで本研究では、SVA による開発途上国への図書館支援活動を研究テーマとして取り上げる。同会が支援活動を行う上で現在どのような課題があるのか、またその課題に対してどのような解決の方法があり、図書館関係者によっていかなる協力が可能であるかを明らかにする。

本研究では、SVA による図書館支援活動を対象とする。文献調査とウェブサイト調査を通じて、SVA による図書館活動の経緯や、図書館支援の活動の現況をまず把握した。次いでラオス人民民主共和国にある図書館を対象とした訪問調査とインタビュー調査を行うことで、SVA による図書館支援活動の実態をより詳細に把握した。

調査の結果、SVA では各地域における政府の方針や地域の課題、出版状況などを考慮して活動内容を決めており、そのため SVA による図書館支援の活動内容は地域によって異なることが判明した。また訪問調査とインタビュー調査を経て、SVA による途上国への支援活動における課題及びラオスの図書館が有する課題が明らかになった。

現状の課題としては、SVA の職員に求められる知識・技術の検討、登録・分類・貸出システムのデジタル化、図書館員自身のマネジメント能力の強化、各県立公共図書館による移動図書館活動の活性化がある。特に図書館員の資質に関する課題については、各図書館員の能力に合わせて研修会の受講内容を組み立てるのが適切であると考えられる。また同時に、図書館関係者は日本及び海外諸国において、図書館員のマネジメント能力を強化するためにこれまでどのような研修が企画・実施されたかを調査し、SVA 職員の求めに応じて情報提供を行っていくのが適切であると結論付けた。

本研究では、他の国の政府及び NGO 団体による図書館支援については言及していない。開発途上国の図書館では急激な経済成長によりサービス環境が変化し続けているため、他の国の政府及び NGO 団体による支援活動の内容や、日本の NGO による図書館支援の活動との相違点を明らかにしていくような継続的調査が必要である。

(指導教員 吉田右子)